銀河

全北海道退職教職員の会網走支部通信

No.88　２０１２年１１月１０日

道退教網走支部事務局
〒０９０－０８３６
北見市東三輪１丁目８３－３５
TEL 0157-31-7551 F ax0157-31-7559

和楽器に親しむ中学校邦楽部員、過去最高２１名

遠軽中学校邦楽部　外部指導員　谷　藤　紅　山

２００１年に創立した遠軽中学校邦楽部は、今年で１２年目を迎えました。部員数は少ないときで８名、多い時は１９名（２度）で活動してきましたが、今年度は、過去最高の部員２１名でスタートしました。

体育系の部活動が多い中で、文科系は現在、吹奏楽部だけですので、運動は苦手だけれど部活動を体験したい、他にも習い事をしているので短時間で活動する邦楽部に入りたいという生徒が希望してくるようです。

外部指導員という立場で、午後３時半頃に学校に出かけ、午後５時半にはミーティング終了という形で指導しています。練習日は火、水、木曜日の週３回のみで、準備、後片付けの時間を除くと、実質の練習時間は４時から５時１５分までの一時間あまり。短時間で、個人・パート練習、そして合奏練習と部長と副部長がパートリーダーと相談しながらスケジュールを決めて取り組んでいます。

校内での顧問は２名で、部活の技術指導（箏、三絃）と生徒の悩みなど心の指導もしていただいていますので、大変助かっています。

現在は、尺八５名、三絃５名、箏１１名でスタートし、普段はパートリーダーを中心に練習を効率的に行い、どうしてもわからない時は、顧問や指導員に尋ねながら、後輩たちの指導を進めており、特に今年は、部活の運営や曲の取り組み方が順調に進んでいるように感じています。

部活動を進める際、楽器のことが心配されますが、尺八は塩ビ管（市販品）を使用し、できるだけ早く合奏に加われるよう私が七孔尺八に改作しています。

三絃は、５丁ありますが、全て寄贈していただいたものです（遠軽町、北見市、札幌市）。箏３面と十七絃一面は、教育委員会の経費で購入していますが、残りの１１面も寄贈（遠軽町、札幌市）されています。「母（や祖母）の遺品ですが、子供たちが大切に使ってくださるならば：」とか「私が子供の（あるいは若い）頃に使っていたものですが、使えるならば…」とおっしゃって下さり、大切に使わせていただいています。

原稿を書いている今朝も、北見市の知人の箏奏者から電話があり、「東京から送られてきたので、使って下さい。」とお申し出をいただきました。本当に有り難く、紙面をお借りして子供たちと共に感謝申し上げます。

部活動に関わる経費は、教育委員会やＰＴＡから年間、５、６万円ほど支給されますので、消耗品、備品等に支出し、部費は徴収していません。

今年も、北見市内の邦楽グループ「は・あ・ぷＪ」の第２０回記念演奏会に特別出演させていただけるということで、子供たちも一生懸命、自主的に、積極的に取り組んでいる姿を見るのが「放課後登校」している私にとって何よりも嬉しいことです。

体が続く限り登校し、三階までの階段を昇り降りして足を鍛え、将来、「また、楽器に触れてみたい。」という人になってくれるように、楽しく、「入ってよかった。」という部活動になるよう尽力していきたいと思っています。現在も、創立当時の（２５、６歳になる）先輩３人が尺八と箏を続けており、自主コンサートや地域の絃方からの依頼で演奏活動に加えて頂いていることは、指導に携わってきたものの一人として今後の励みとなり元気をいただいています。

先日、登別市の山田流の箏指導者から「谷藤先生のご門人に共演していただき、私の教えている箏の小学生と中学生たち５人と尺八を演奏していただきたいのでご承諾を。」とご丁重なるお手紙をいただきました。

まだ生きているうちに、このような活動を要請していただけたことを嬉しく思いますし、続けていてよかったと心から感じました。（なお、このような道筋と機会を作ってくださった新都山流西北海道支部の中村幻山氏にも御礼申し上げます。）

邦楽部の現在の練習曲をご紹介して、筆をおかせていただきます。

「子供のための楽しい歌Ⅲ」：（田端能明編曲）

コンドルは飛んでいく、大きな古時計、荒城の月

「東風夜曲」（水野利彦作曲）

「花かげ変奏曲」（野村正峰編作曲）

「三絃二重奏曲」（宮城道雄作曲）

尺八二重奏「アメージング・グレース」（高橋久美子編曲）

「北海民謡調」（宮城道雄作曲）

【部活動の詳細は、過去の活動も含めインターネットでＨＰ「谷藤紅山の尺八ステーション」で検索しますとご覧いただけます。】

おばやんのフキ

大橋忠廣

北海道の春を彩るものに、コブシ、スズランやフクジュソウの花等があるが、フキは華やかに咲いているでもなく地味に道端で芽吹く。だけれどそれは食用にも供することも出来る優れもの。ここ１０年ぐらい春を味わうためにフキを採ってきては炒め物や味噌の一夜漬けにしている。

少し大きな鍋で茹で上げ冷水にさらした後、包丁で繊維の塊のような皮を丁寧に取り残しなど無く剥いて行く。結構手間のかかる作業ではあるが冷水の入ったボールの中にそれを入れると自然の造りだす贅沢な色を身に纏ったフキが身を晒す。たかがそれだけのことなのだが嬉しく一人悦に入る。

昨年の春には散歩の途中網走川の土手で芽吹いた、フキノトウを採取し生まれて初めて天ぷらと味噌合えにして食した。

さて、おばやんのフキの話であるが、まず、おばやんとは誰かというと私の母方の曾祖母にあたる人で、昔、もう３０数年前にもなるのだけれど、私が生まれた町、美幌の実家の道路を挟んだ向かい側に家があってそこに住んでいた。

私が結婚した頃はまだ健在で家内も会ったこともある人で、おばやんの住んでいた家は昭和を象徴する、その当時どこの家もそうであったように木造の良くも悪くも風通しの良い家だった。家の周りにはニワトリ小屋、豚小屋や畑があって働き者のおばやんは天気のいい日にはいつも畑の中で草取りや作物の手入れをしていた。腰が曲がっていたのでその分小柄な体を更に小さく見せていた。ほぼ水平に屈めた体で使われなくなった乳母車を台車にして押し歩いていた。畑の作物等も実家へそれに乗せて運んでくれていた。そんなおばやんも数年後には老衰で亡くなった。眠るようにして亡くなった。見事な程に感心するような大往生ってやつだ。

そんなおばやんが宮城県から数株のフキを持ってきた。だから、現代の話ではなくそれは遡ること半世紀以上前の、私（現在６２歳）が１０歳以前の話しのようなのだ。

と言うのもこの話は実家の父母から聞いた話である。

それまでは宮城県と言ったら、ルーツなど気にしたこともない私にとっては全く縁も所縁もない土地と思っていたのだが、父母からの聞き伝えで本の少しだけ関わりがあるということを知らされて驚愕した。それが昨年の話なのだ。

で、本題に入るとおばやんがまだ元気な頃、生まれ故郷である宮城県角田市に里帰りをしたらしい。その時にどのような理由なのかは不明で今では推測の域を出ないのだがフキの根株を持ち帰ったらしい。そしてその一株を実家の畑の片隅に植えた。それは多分、故郷への思慕の念と、それを植えれば翌年か翌々年には根付き必ずや芽を出し物不足の時代の、私の父母にヒモジイ思いを少しでもさせまいとの、おばやんのささやかな心遣いだったのではないかと思う。

それまでも宮城県角田市をルーツを持つフキを春先の山菜の一種として知らず知らずのうちに何度も食していた。知らずとは言え、既に春から夏にかけての食卓のおかずの一品としてのその位置を確立していた。

そのフキは見た目にはか細く生育の悪いフキのようにも見えるが、茎が細い割には中央を走る空洞が殆ど無い分肉厚でフキの香りと味が何とも濃厚なのだ(あくまでも個人の感想であるが)。何度食しても飽きがこない。

宮城県をルーツに持つフキ。その話を聞かされていなければ、私は何時しか刈払機で雑草と一緒に刈り取ってしまっていたかもしれない。

５０数年経過するものの枯れず畑の片隅に畳２畳程に自生し逞しく生き延びてきたということに何か感慨深いものがある。

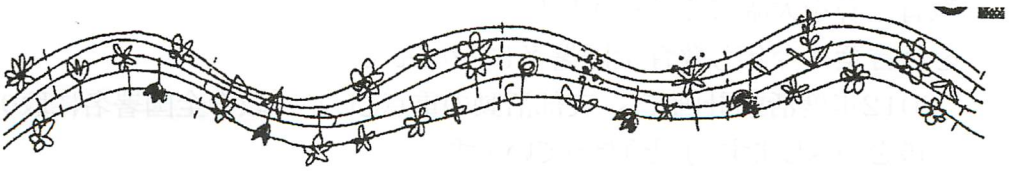
うたごえ喫茶

とき　　11月17日（土）　午後7：00～9：00

ところ　　喫茶店「カナ」　Cafaショップ
（網走市新町1丁目7－6　そばのかね久のとなり）

参加費　　500円（1ドリンク付）

問い合わせ先　　0152－44－1325　　飯田禎子



◎今年もブック・ドクターの方々が夢と希望を抱えて来網した。
◎”しんさん”は、９月１４日(金)に絵本を持って幼児に笑顔と笑いを届けてくれた。一般講演では、昨年の被災地の子ども達がいまだ瓦礫だらけの街から涌き上がる希望を膨らませ、落ち置いていると報告。「大人は子どもに安心できる環境と、”大丈夫だよ!″という存在でありたい」と。”大丈夫″は信じることであり、認めてもらうことだ。現地の保育士が一団となって希望を持てる”人″を育てている。財産である。
◎２７日（木)”あきひろさん”の講演は、南定で実施。「しげるちゃん」という女の子の名前にまつわる絵本を読んだ。亡くなった兄への願いを込めてつけられた意味がわかった時、名前を好きになろうとするドラマが転回された。参加した生徒の横顔、いじめの原因がこんなところにあるということがわかる話に聞き入る姿が印象深かった。
◎「大好きなこと、いやなことがはっきりしている生き方を」と。
◎自分の居場所になる、そういう社会が必要だが、子ども達に不安を与える現状が続く。権力を振りかざして強引に決めるやり方を、黙ってみているわけではない。二人のブックドクターから勇気と希望のメッセージをいただき、心からの拍手を送った。

飯田禎子

教育全国署名にご協力を

こどもたちに希望を

国の責任で30人学級を！！
教育予算を大幅にふやそう！！
を合言葉に今年も教育全国署名にとりくんでいます。

2012年度活動計画でも 支部活動の重点として「教育全国署名に取り組み500筆突破をめざします。」とうたっています。

署名用紙を2枚 20筆分お届けしましたが、今のところ石崎さん、田中さんから署名が届いています。

今年は11月27日しめきりとなっていますので、25日（日）までに事務局までお届けください。

皆様のご協力をお願いします。